

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームあかぎ
(ユニット名)	1丁目
所在地 (県・市町村名)	群馬県渋川市赤城町勝保沢732-1
記入者名 (管理者)	磯 律子
記入日	平成 19年 8月 6日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>重度要介護者がほとんどである為、人間らしく尊厳ある生活を営んで頂くことを重点においています。地域に出向いて交流を図ることは困難ですが、地域の方々に慰問行事やお祭りなどで来てもらって交流を深めています。</p>	○ 今後、同様に取り組んでいきます。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員室のよく目につく場所に運営理念を掲示し、運営理念を共有しています。また、毎日の申し送りや月数回ある会議など、節目節目で管理者から職員へその意味についての理解を深められるよう話しています。</p>	○ 今後、同様に取り組んでいきます。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>入居契約の際には、必ず口頭で説明し、ご理解頂いた上で契約するようにしています。 また、運営推進会議や行事など、地域の方々や家族が集う場所で当ホームの有り方など折を見て話すようにしています。</p>	○ 今後、同様に取り組んでいきます。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近隣の商店には入居者様と一緒に立ち寄り、世間話しなどをしています。また、外食なども近隣の飲食店に出掛けています。</p>	○ 今後、同様に取り組んでいきます。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地区の納涼祭や地元のお祭りに参加し、地域との交流に努めています。また、管理者は区の座談会等にも参加しています。</p>	○ 今後、同様に取り組んでいきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域や地元の方からの介護サービスに関わる相談などを積極的に受けるようにしてます。当ホームへの入居希望に関わることはもちろん、認知症に関する知識やその介護方法などの相談も随時受けています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価については申し送りでその意義について説明した上で、評価日時を職員に知らせています。評価結果は、全体会議で全職員に周知させ、以降の意識改善に繋げるよう喚起しています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議メンバーの意見は、地域やご家族から直結したご意見として貴重なものと捉えています。この会議での意見が行事を行う上での材料であったり、ご家族様全体への呼びかけにも繋がり、随時お便り等を通して発信しています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	具体的な行き来の機会としては、ホーム内行事に招待したり、役所を訪問した際に情報交換を行ったりしています。	○	市町村担当者と話しを持つ機会を多く作るよう努力し、更なる連携によってサービスの質的向上を目指します。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	後見人制度については、施設内外研修にて学ぶ機会を設けています。また、当ホーム入居者の後見人との関わりの中で学ぶことを大切にしています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	報道等で虐待があった際には、申し送りや会議等で全員にその事実を周知させています。 また、外傷を発見した場合には、その外傷の原因について追求し、それが虐待によりものでないことを確認するとともに、関わりのある職員にはインシデントレポートの提出を義務付け、今後受傷しない為の対応策と反省を考察するシステムをとっています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>文書をもって口頭で説明することを基本とし、節々に疑問点についてお伺いしながら説明しています。また、ご家族や利用者様にとっての不安や疑問に対しては、いつでも申し出て欲しい旨をお伝えするようにしています。</p>	<p>○</p> <p>今後、同様に取り組んでいきます。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>サービスアンケート調査を年に1回行っています。無記名にておこなっているため、率直なご意見を頂いています。頂いたご意見は各会議にて検討し、改善を図る為に職員全体で話し合っています。</p>	<p>○</p> <p>今後、同様に取り組んでいきます。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会が頻回にあるご家族に関しては、緊急時以外は面会の際にその都度状態報告をしています。面会の少ないご家族に関しては、定期的に電話での状態報告をしています。</p>	<p>○</p> <p>今後、同様に取り組んでいきます。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を定期的実施しています。多くのご家族様が参加して下さり、率直なご意見を下さっているように感じています。</p>	<p>○</p> <p>今後、同様に取り組んでいきます。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>各担当毎やユニットの会議により職員の意見を出来るだけ多く吸い上げることができるよう取り組んでいます。また、管理者同席の場面では言い難いこともあると考え、研修委員会やユニットリーダーを設け、そのメンバーが日頃から積極的に職員の意見を収集することと、各々の会議で話し合うことで、当ホームの運営に有効に反映させています。</p>	<p>○</p> <p>今後、同様に取り組んでいきます。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>朝の申し送りの後に、各ユニットだけの申し送りを行っています。その日の状態に合わせたケアを提供出来るよう情報交換とケア内容の周知・徹底の場として活用しています。</p>	<p>○</p> <p>今後、同様に取り組んでいきます。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ユニット異動は定期的に行うこととし、入職2年を経過した職員はどのユニットにおいても顔見知りの存在となって入居者様と関わる事が出来るようになっていきます。</p>	<p>○</p> <p>今後、同様に取り組んでいきます。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新入職員に対して、統一した教育が出来るよう当ホーム独自で作成したレクチャーシートを用いています。また、教育者は経験の長い者をユニットリーダー(兼コーチャー)として各ユニットに必ず1名配置し、新入職員だけでなくそのユニットの職員を日常的に教育出来るようなシステムを取り入れています。</p> <p>また、経験やステップ段階に応じたグループ内外の研修には必ず参加しています。</p>	○ 今後、同様に取り組んでいきます。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>群馬県認知症高齢者グループ連絡協議会における交流を大切にしています。連協における交換研修や親睦会を通して、地域のグループホーム管理者等と互いのサービスの質的向上の為に情報と意見の交換を積極的に行っています。</p>	○ 今後、同様に取り組んでいきます。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>業務を日課制にすることにより、職員の休憩時間を確実に確保しています。休憩時間が業務の延長ではなく、職員だけの空間で取ることが出来ることにより、職員同士での意見や疑問、不満や要望を話す機会を有効的に設けることが出来ています。</p>	○ 今後、同様に取り組んでいきます。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個人の努力や会社貢献に対して、明確な評価をするシステムが構築されています。目に見える評価をしてもらえることで、職員個々の向上心に繋がっています。</p>	○ 今後、同様に取り組んでいきます。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居に至るまでに、利用中の介護施設や在宅をご家族の同意を頂いた上で訪問させて頂き、ご本人とお話する機会を出来るだけ設けるよう努力しています。</p> <p>また、利用中の介護施設や病院がある場合には必要な情報を早い段階で頂けるようお願いしています。</p>	○ 今後、同様に取り組んでいきます。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族の時間が許す限り、当ホームに来居頂けるような機会を作るようにしています。館内案内や重要事項説明、契約を一度に行うのではなく、それぞれを分割して行うことで、その過程にある会話や意思疎通によって信頼関係は築くことができると考えています。</p>	○ 今後、同様に取り組んでいきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームにおけるサービスだけではなく、他の介護サービスについても説明し、選択出来る知識を提供することになっています。また、当ホームにおいて出来ることと出来ないことをはっきりと明示することで、求めているサービスが受けられるかどうかの判断材料にして頂けるよう努めています。当ホームにとって有益かだけを追い求めることは結果的には、当ホームにとって無益であると考えています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初回の介護計画書を説明する際に、『暫定的なものでしかなく、今後のホームでの生活状況や精神状態、身体状態に随時合わせて変更していくものであること。』を十分に説明しています。 また、その変更に当たっては、その都度、説明と相談をさせて頂くこととしています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ケース会議においては『その人が出来そうなことはなにか？』『何を支援すればそれが出来るか？』ということを見交換しています。忙しい介護の現場にあつて私達介護者が常に感じ考えて行動するべきことは何かということ、職員教育の中に盛り込んでいます。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	必ずご本人の状態をご家族に報告した上でどうしたらご本人が快樂にいられるかを問うことにしています。その上で、当ホームとして考えた提案出来るケア内容をいくつか用意したことを説明し、そこから選択して頂くことにしています。どんな小さなことにも積極的に真剣に取り組んでいるという姿勢がご家族にも伝わり一緒に支えることの出来る体勢を構築すると考えています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族はそれぞれの立場(子、嫁、孫など)で、ご本人に関わっているということ、それぞれ違った思いを持っているということを念頭に置いています。利用者に対する家族・親戚の思いや考え方は決して統一されたものではなく、増してなによりご本人がそれを望んでいるとは限らないこと、その距離を出来るだけうめることが、グループホーム管理者における重要な役割の一つと考えています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状、このユニットにおいてその対応をしている方はありませんが、対応出来る体勢は整えてあります。 面会に訪れて下さった場合には、ゆったりと気兼ねなく面会出来るよう、ご案内の後、環境を整えた上でその場を離れるようにしています。	○	要望やその必要性に応じて随時対応します。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	それぞれがホームの生活の中で持っている役割を認識した上で、入居者様同士が更に良好な人間関係を築く為に、ホームとしてどのように取り組んでいくべきか、ケース会議や毎日の各ユニット申し送りの中で話し合っています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居されるご家族(特に入院など)にとっての一番の心配事は、今後の介護サービスお必要とした場合、いつでも相談でき、頼りとなる存在があるかどうかだと考えています。退居に際しては、お困りの際にはいつでもご相談頂きたい旨を必ずお伝えし、実際、入院中やその後の経過などを電話連絡やメール等によってお伺いし、把握するようにしています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の趣味・嗜好は入居前にご本人やご家族から情報を頂き、個々に提供するケアとしてケアプランに組み込んだ上で援助しています。入居後はその反応を観察しながら、よりご本人の本位に近付けているか検討しています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	項目33同様に取り組んでおります。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の過ごし方に関してはスタッフの観察によって、心身状況については医務担当者及び日々のスタッフ観察を基に往診医・訪問看護師・協力医療機関等と連携を図りながら、現状に応じた個々の生活とその援助に繋げています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族へは定期的に連絡し、ご本人の身体状態と生活状況についてご報告の上、その都度ケアの内容についてご相談しています。それらの要望や内容をスタッフとケース会議で話し合い、介護計画に組み込んでいます。尚、介護計画は1ヶ月に1回見直しています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	項目36同様に取り組んでおります。尚、見直し以前に生じた状態の変化に対しても、随時ご家族へ報告・相談の上、その都度の介護計画の変更に対応しています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	『介護計画書』『介護支援経過』『経過記録』『あかぎ日誌』を連動させて活用することにより、記録は整備されています。スタッフの観察による気づきは、その情報を共有することにより、より本位に近付いたケアに反映されると考えています。この数ヶ月は、『意見交換シート』を作ったことで、より円滑にケアの提供に繋げることができています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近年に多い内容としては、医療面の充実に関する関心と要望が強いように感じます。医療面のみに関わらず、様々な要望に対して、グループホームの特性と機能を活かしたケアをその人らしく提供できるよう取り組んでいます。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域的にボランティアが発達していないことから、ボランティアに関わることについての取り組みは少ないものの、地域の文化祭への参加や近隣中学校の職場体験学習受入れ等に積極的に取り組んでいます。また、地域の有志の方々が日本舞踊や太鼓、大正琴などの披露を頻繁にしてください。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入退居に関わる場面での連携は円滑に出来ていると考えています。他のサービスを利用することに関しては、現状グループホーム内において生活全般の援助が医療連携を含め円滑であることと、ご本人及びご家族からの要望がない為、これまでにそういったケースは発生していません。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現状、要支援者が入居されていないこともあり、地域包括支援センターとの連携はほとんどありません。	○	今後、必要に応じて協働していきたいと考えます。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域医療が不十分と思われる現状において、当然必要なことと捉えて取り組んでいます。これまでのかかりつけ医との連携を大切に、定期的な受診等に対しても対応しています。併せて、往診医や訪問看護師とも情報共有することで、その時々に応じた適切な対応を図る事が出来るよう取り組んでいます。	○	今後、同様に取り組んでいきます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	今後、同様に取り組んでいきます。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	今後、同様に取り組んでいきます。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	今後、同様に取り組んでいきます。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	今後、同様に取り組んでいきます。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	今後、同様に取り組んでいきます。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	今後、同様に取り組んでいきます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護に関する研修を全スタッフを対象として受講させるようにしています。特に、新入スタッフに関しては、その必要性を説明した上で、書類等を取り扱うことを徹底させています。マニュアルの中でもその必要性について明記し、各スタッフに冊子として渡しています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	声かけの方法としては、選択して自己決定できるような声かけを心掛けています。また、ケアプラン上で、個々に応じた声かけと対応について子細に明記し、全スタッフが統一した対応をすることで、その人が自己決定する際に混乱したり、良い場面転換の機会を作れるよう努めています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当ホームの方針として、規則正しく人間らしく生活して頂く為に、起床、更衣、食事、入浴などの基本的な生活日課は作っています。その上で、一人一人のこれまでの生活リズムや嗜好に合わせたケアの方法を見出し、支援しています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望の理美容店があれば、ご家族と協力しながら対応しています。しかし、個々の重度化に伴ない、馴染みの店に行くことが困難となるケースもあり、ほとんどの入居者様が週に一度の利美容サービスを活用しています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関わる家事援助が出来る入居者様は1名しかいないので、主にその方と一緒に食事の準備をしています。その日の精神状態によって出来る日と出来ない日があるので、その状況と状態に合わせて対応しています。その他、定期的に外食会を実施し、職員と入居者様が普段と違った雰囲気の中で食事を楽しめるよう援助しています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお酒、飲み物、おやつ、たばこ等を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒に関しては、現在好まれる方やご家族の要望がないので対応しているケースはありません。喫煙に関しても同様です。おやつに関しては、午前10時のお茶会のお菓子をお買い物で好みのものを購入して頂くようにしています。お買い物は1回/週程度の割合で実施しています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	意見交換シートやケース会議で個々の排泄パターンやサイクルに合わせた援助の方法を見出して援助しています。排泄パターンを探るために、2～4週間かけて排泄パターンを見出す作業を行い、その中から最適と考えられるタイミングで援助するなどの取り組みをしています。また、観察の中から、その方の排泄のサインを見逃さないようにしています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間は決めています。入浴日は一定化せず3～4回/週入浴出来るように、個々の精神状態や訴えに合わせて入浴の声かけと援助を行っています。 抵抗力の低下している高齢者にとって、清潔の保持は最重要課題を考えて援助しています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	重度介護の多いこのユニットでは、その方の状態に合わせて日中の休息時間を設けています。夜間不眠ぎみの入居者様には、出来るだけ日中の活動を高められるようなケアプランをケース会議等で話し合い実施しています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出の機会を多く設けられるように努力しています。日々の生活の中では、その方の生活歴や趣向にあった家事援助やレクリエーションを個別に提供しています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に当ホームが金銭の管理に関わることはしていません。しかし、ご自分で金銭管理をしている方に関しては、お買い物等の援助を随時行っています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	明確な外出の希望をされる方はいませんが、屋外に興味があるような素振りや仕草がある時には随時、外へ連れ出し気分転換をして頂いています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月1回外出行事を企画し、入居者様の行ってみたい場所などの希望をお聞きした上で、外出先を決定しています。博物館、公園でのピクニック、美味しいケーキを食べに行くなどその趣向は様々です。	○	今後、同様に取り組んでいきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	このユニットにおいて電話の希望をされる方はおりません。手紙を書いたり発送する希望のある方もありませんが、希望があり次第随時対応出来る体勢があります。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	建物の設計上、予め職員が目が届かない位置に談話室を設けています。これにより、職員の視線を気にすることなく面会時間を満喫して頂けているのではないかと考えています。職員には、明るい挨拶の必要性を折に触れて教育し、明るく居心地の良い空間作りの演出に努めています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行っていません。また、申し送りやケース会議などで定期的に身体拘束について説明し、ケアに身体拘束は必要ないことを認識させています。サークルや居室の施錠も場合によっては身体拘束に成り得ないことを職員は理解しています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に関して鍵をかけることはありません。玄関に関しては、安全を第一に考えている当ホームの方針として施錠しています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室を訪室する際は、必ずチャイムを押しプライバシーに配慮した上で、安否確認を行っています。居室不在時においても、訪室しなければならない際には、ご本人の了解を得た上で入室しています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	このユニットにおいて注意を要する物品を持ち込んでいる方はいませんが、そういった対応が順応に出来る体制があります。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各々の事項について勉強会を適宜開いています。また、事故を未然に防ぐ為、ハットしたりヒヤリとした事例についてインシデントレポートとして書類化し、全体の会議で情報共有しています。また、それらを集計し、統計することにより発生しやすいインシデントについての対応策について定期的に注意喚起しています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署主催の救命救急に関わる研修に、毎年数名のスタッフが参加しています。また、緊急時の対応について勉強会を実施しています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2回／年にて、消防署指導のもと、避難訓練を実施しています。近隣の商店や住民の方々とは、日常会話の中でそういった場合の対応について折に触れて話すようにしています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態や状況に合わせて、考えられるリスクについては随時説明しています。定期的に状態報告することで、急な連絡によりご家族を驚かせることなくご理解頂き、話し合っています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人一人の状態について観察を日々繰り返し、アセスメントを子細に出来ることがグループホームの最大のメリットと考えています。観察から得られた情報とその対応については、決まったシステムによって速やかに全職員に伝えられ、対応しています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主用な内服については、よく理解しています。内服の変更や追加、減量によってどのような変化や副作用が予測され、何に注意して観察したら良いか明確に指示することで、有効な観察と情報が得られていると感じています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人一人の排便サイクルについてよく観察し理解しています。水分補給や食事の摂取状況が排便に及ぼす影響について考え取り組んでいます。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人一人の身体レベルとその日の状態に応じて臨機応変に毎食後の口腔衛生の援助を行っています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の生活スタイルや習慣にあった飲食への援助をしています。特に水分補給に関しては、お茶や水を意識して摂取する習慣がなかった入居者様もいることから個々に応じた工夫をしています。 また、疾患やDr指示に応じて、栄養士と相談しながら提供の方法や時間、Na、K補給の工夫等もしています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルと感染予防マニュアルをいつでも閲覧できる場所に設置しています。 また、ケース会議や申し送り等によって、季節に応じた感染症に対する警告と予防について指導しています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の保存方法は、決められたシステムによって管理徹底されています。また、より食中毒への予防に努める為、管理者は食品衛生管理者資格を取得しています。 各スタッフは、1回/年に食中毒に関する研修を受講し、その意識を高め、予防に努めています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の周囲は植樹し、ハードな建物のイメージを緩和できるよう努めています。また、自家農園もあり、運営推進会議メンバーの方やご家族、そういったことを得意とする入居者様などに農園に関するアドバイスを頂いています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を多く設計したことで、明るい共同生活空間を提供することができています。窓からは、季節の移ろいを日々見渡すことが出来、のんびりとゆとりの時間を過ごして頂いています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スタッフからは目が届かない位置に談話室が設置されていることで、そこで過ごされる方もいます。重度認知症を抱える方が多いこのユニットでは少数ではありますが、開放的な居場所としてうまく活用されていると感じています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族には使い慣れたもの(タンスや机、仏壇、電化製品など)を自由にお持ち下さるようお願いしています。見慣れたり、使い慣れたりしたものを身の回りにおくことが安心に繋がります。ホームでの生活を居心地の良いものとする事を理解しています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	時間やタイミングを決めて、定期的に換気しています。また、排泄等の臭いが発生する場面で随時換気を行っています。 温度管理は夏は27℃設定で、冬は24℃設定でエアコンを使用し、外気との差を出来るだけ最小限にするよう心掛けています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・脱衣室・浴室には手すりを備え付け、床面はフラットになっています。危険な要素を排除し、一人一人がその機能を十分に活かして安全に生活出来るよう設計された館内となっています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人のわかること、わからないこと、出来そうなこと(何を援助すればそれが出来そうか。)を意見交換シートやケース会議で話し合いながら、その人が持つ最大限の力を発揮出来るよう日々取り組んでいます。	○	今後、同様に取り組んでいきます。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外には農園があり、入居者様と一緒に家庭菜園をしています。テラスは広く、洗濯物を干すスペースとテーブルを設置しお茶会が出来るスペースを確保し活用しています。	○	今後、同様に取り組んでいきます。

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

情報の共有化とそれらをしっかりと記録に残すことの重要性についての職員教育により努めており、書類が整備されています。忙しい業務の中でいかに効率的にしっかりと記録を残すことが出来るか、更にはそれらを共有することでアセスメント、ケアプラン作成により有効に活用出来ること。また、ただ記載されているだけではなく、全職員がそれらの書類に目を通すことが出来、情報を共有し、統一された混乱を生じないケアの提供に繋げることが出来ているのではないかと思います。

ホームとしては、職員が安心して働き易い環境とシステムを持つことが、入居者様へのケアに直結すると考えています。

ケアプランは、月に一回のケース会議にて見直し、月始めに更新された書類として差し替えられます。これにより、入居者様個々のその時々状態にあった最新のケアプランを常に維持することが可能であり、それを全職員が目を通すシステムが構築されています。

当ホームは職員が予め決められた日課にそって動いています。グループホームにおいてはあまり例のない取り組みではありますが、重度化するなどの入居者様に対しても均等な見守りと観察を継続することが出来ます。また、それぞれが連携と声かけをしっかりと行わなければ入居者様に直接影響してしまうこともあり、職員同士の信頼関係は頑強であり、それぞれが互いを思いやって就業しているように感じます。また、日課制であることにより、職員は決められた時間にしっかりとした休息時間が確保されている為、気分転換することによりより良いケアに繋げることが出来ていると感じます。休息時間は、情報共有の場・時間としても有効に活用されています。